

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

呼名に対する返事や友達への関心を高めるための ICT 活用

「呼名場面での大型テレビモニタ活用」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部 2 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に、教師との一対一の関わりがほとんどである。 ・呼名されても、意図理解や返事が難しい児童がいる。 ・友達への関心や遊びの共有等がほとんど見られない。 ・学級での一斉指導において、提示された物への注目が難しい。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	日常生活の指導
	単元(題材)名	題材名「朝の会」 ～呼名の場面～
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・呼名されたことに気付き、相手の方を見て自分なりの方法で返事をする。 ・友達に関心をもち、教師の関わりを受け入れながら友達の方に視線を向けたり注目したりする。
教材・教具支援機器について	教材・教具支援機器	<p>○TVモニター ○タブレット端末 ○PowerPoint</p> 
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビモニタに映る自分や友達の顔写真を見て呼名されることに気付き、自分から返事をしようとしたり、友達に関心をもち顔写真や姿に注目したりする。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint のシート一枚につき、顔写真一枚を取り込む。今後の文字への繋がりも考え、写真の右側に平仮名で名前も入れる。 ・文字を読める児童が返事をする手掛かりとなるように、顔写真に「はい」と返事の吹き出しを付ける。 ・顔写真に注目しやすいように、背景は黒色にする。 ・操作は教師主導で行うが、顔写真を映し出す際のタブレット端末の画面のタップは、呼名係の児童が行う。
	材料・作成方法等	PowerPoint
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・テレビモニタには関心が高く、また、顔写真を映すことで状況が変わるため、変化に気付いて画面に注目するようになった。 ・音声言語による呼名に顔写真の視覚情報が加わることで、呼名される状況に気付きやすくなった。また、自分の名前が呼ばれるという心構えをもつようになり、呼名係の児童の方を見る、返事の声が大きくなった、という姿に繋がった。 ・呼名されてから返事をするまでの時間が短くなってきた。 ・教師からの促しはまだ必要であるが、モニタの顔写真と実際の本人を見比べるようになった児童がいる。 ・吹き出しの「はい」の文字を見て返事をするようになった。 ・呼名係の児童は、タブレット端末の画面をタップするとモニタに顔写真が映し出されるという関係性が分かるようになり、タブレット端末と大型モニタを見比べている。また、モニタを見た後にその友達の前へ移動し、顔を見ながら名前を呼ぼうと「くん」と発声するようになった。友達の方を見て名前を呼ぶという意識が高まった。